

入学前課題について

松山東雲短期大学保育科

保育科に入学するまでの間に自己学習すべきことを以下の課題1～3に示します。これらは4月から学ぶ事のほんの一部ですが、どれも保育者を目指す学生にとっては重要な課題となっています。是非、意欲的・積極的に取り組んでみてください。入学後に実力がつくかどうかは、皆さんがどれだけ自主的・主体的に学ぶかにかかっています。そのための第一歩を、今、踏み出してください。

入学までの期間中にあなたが学び、考え、実践したことを、以下のような「実践報告書」にまとめて、入学式の翌日（オリエンテーション時）に提出してください。

<形式>

- A4横書きで作成します（枚数は自由です。）。
- 基本的にはパソコンを使って作成します（フォントサイズは11ポイント）。
※ パソコンが無い場合は、手書きでもいいです。
- 表紙をつけて、氏名を記入してください。
- イラストや絵、写真など、必要に応じて使用してもよいです。

<内容>

課題1 みる 「チャイルドウォッチング」

私たちは、身近な人や身の回りのものごとを毎日「みて」います。しかし、「みて」いるからといって理解しているとは限りません。何げなく、見過ごしていることに大切な意味が隠されているかもしれないし、自分とは異なる「みかた」があるかもしれません。人やものごとを深く理解するためには、「よくみる」そして「みて考える」ことが必要です。

保育という「人間」にかかわるテーマについて学ぶうえで、「よくみて、考える」ことを通した、「人間に対する深い理解」するための努力は不可欠です。そこで公共の場である公園や乗り物、レストランや商業施設などに行き、子どもを観察してみましょう。観察したことをできるだけありのままに、ていねいに記録し、考えたことや疑問に思ったこと、感想や意見を書き加えて、一回観察するごとにA4用紙1～2枚にまとめてみてください。

【注意事項】

子どもを観察するときは、常に相手に敬意をはらって、絶対に迷惑にならないように注意しましょう。必要であれば保護者の承諾を得てから記録をとってください。遠くから見守る方法もあれば、思い切って近づいて子どもに話しかけてみたりする方法もあります。無許可で子どもの写真を撮ったり（たとえ自分が見ただけで他人に見せない前提であっても）、無理にいろいろなことを聞き出したり、見聞きした個人情報をやたらと他人に話したりすることは厳禁です。



課題2 きく 「自分の子ども時代について知る」、「先生にインタビュー」

「みる」ことと同様に、毎日の生活の中では「きく」ことも多いと思います。受身となって「きく」のではなく、積極的に「きく」ことに取り組んでみてください。まず、「誰に」「何を」聞きたいのか、考えてみましょう。あなたが「ききたいこと」を考えてから、しっかりと相手に話をきき、メモを取り、それをまとめてみましょう。

◎自分の子ども時代についてきいてみましょう

自分が子ども時代、どんな子どもであったのかを身近な人に聞いてみましょう。その際、昔の写真などをコピーしてエピソードなどを添えるといいかもしれません。

◎先生にきいてみましょう

小学校、中学校や高校などでお世話になった先生や習い事の先生など、目上の方に話を聞いてみるのもいいでしょう。「どうしてその職業を選んだのですか?」「失敗談を教えてください」など、経験豊かな方の話から自分の視野を広げていくことができるはずです。話を聞くお願いをするところからはじめ、時間や場所の設定も必要です。聞く際も言葉遣いに注意し、礼儀正しい態度で話を聞くようにしましょう。

※社会人入学者で先生へのインタビューが難しい場合は、省いてもいいです。

課題3 しらべる 「自分で調べた幼稚園教諭或いは保育士について」

調べるという作業は時間が十分に取れないとなかなかできない作業です。この際、4月から勉強することを先に自分の興味の範囲で調べてみるといいでしょう。そこで調べるテーマを「自分で調べた幼稚園教諭或いは保育士について」に設定し、自分になりたいと思った幼稚園教諭の免許や保育士資格、またそれらの仕事、なんでも結構です。興味・関心あることについて調べてみてください。